

3. これからの日沿道開通を最大限活用した地域展開方策の立案、実行に向けて

3. 1これまでの開通効果の整理・分析結果から見える地域展開方策の方向性

開通沿線地域の変化を見れば、産業面や広域観光面で特に大きな変化が現れています。今後の日沿道の開通を見据え、特に産業面や広域観光面で県北地域が連携して施策や取り組みを展開し、これまで以上に大きな相乗効果の発揮を目指します。このとき、

①地域の特性や資源を武器にする

②あらゆる階層で連携して取り組む

③能代港や大館能代空港も含めた県北社会資本ストックを総活用する

ことで、「企業がここに進出したい理由」や「観光客がここに来て滞在したい理由」を生み出していきます。

また、日沿道開通地域では、通勤通学や買い物といった日常諸活動の広域化が現れています。このことは、例えば、日沿道開通により、秋田県のセールスポイントである教育を武器に、「子供は秋田県、親は単身赴任」というような新しい住まい方の提案も可能になることを示しています。定住人口や交流人口の拡大にも着眼していきます。

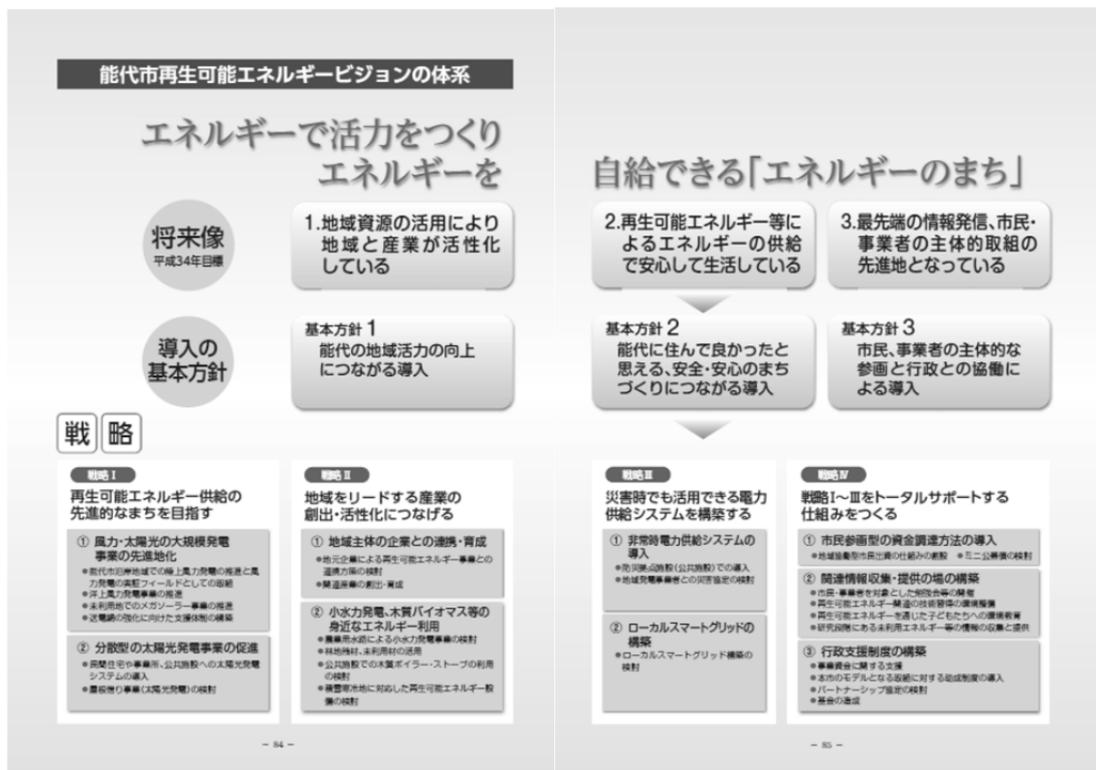
今後の意見交換会では、上述のような着眼のもとで、日沿道開通を最大限活用した地域展開方策の立案、実行に向けて取り組みます。

3. 2既に始まっている新たな地域展開

1)『エネルギーのまち』の構築(能代市)

能代市では、再生可能エネルギーのポテンシャルを活かして、「エネルギーで活力をつくり、エネルギーを自給できる『エネルギーのまち』」を目指す中、再生可能エネルギーで災害時でもとまらない電力供給システムを構築して安全で安心して生活できるまちづくりにも取り組もうとしています。今後の日沿道の開通を見据えると、「災害時でもとまらない電力」+「日沿道」+「能代港」+「大館能代空港」をセットにして安全性信頼性と利便性を兼ね備えた事業環境としてセールスが可能となり、新たな産業創出や企業立地につなげていくことができます。

▼能代市再生可能エネルギービジョンの概要



出典：能代市再生可能エネルギービジョン(平成 25 年 3 月)

▼能代市エネルギー関連事業の動向

分類	事業者	概要	運転開始
風力発電	東北自然エネルギー開発(株)	24基(600kW)	H13.11運転開始
	(株)日立パワーソリューションズ	2基(600kW)	H14.12運転開始
	米代川風力発電(株)	2基(1,990kW)	H25.12運転開始
	能代パワー発電(株)	2基建設中(1,990kW級)	H27.10運転開始予定
	風の松原自然エネルギー(株)	17基建設中(2,300kW級)	H28.11運転開始予定
	丸紅(株)	16基計画中(5,000kW級)	H33年度運転開始予定
	(株)日立パワーソリューションズ	メンテナンスセンターの建設(現サービスセンターの拡充)	H28.12稼働開始予定
メガソーラー	中田建設(株)	1,000kW	H26.8運転開始
火力発電	東北電力(株) 能代火力発電所	1号機(60万kW)	H5.5運転開始
	東北電力(株) 能代火力発電所	2号機(60万kW)	H6.12運転開始
	東北電力(株) 能代火力発電所	3号機計画(60万kW)	H32年度運転開始予定

出典：能代市

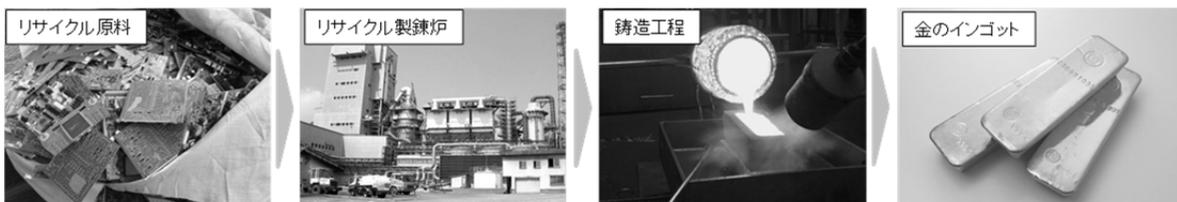
2)東京オリンピック・パラリンピック授与メダルへのリサイクル回収金属の活用提案(大館市)

平成27年5月、小型家電リサイクル法で定める認定事業者が所在する東北3市(大館市、八戸市、一関市)で、リサイクル回収金属を東京オリンピック・パラリンピックのメダルに使う提案を3市連携して国や組織委にしていこうことを決定しました。このような提案は、日沿道をはじめ、北東北三県での広域回収を支える道路ネットワークがあるからこそ可能な展開です。

▼大館市ホームページ

The screenshot shows the Odate City homepage with a navigation menu and a main content area. The main article is titled "2020年、東京での開催が決定しているオリンピック・パラリンピックで授与されるメダルに回収金属を活用するよう、関係機関・団体に提案します。" (We propose to use recycled metal for medals awarded at the 2020 Olympics and Paralympics held in Tokyo, to related organizations and groups.) The article text includes: "大館市では、平成18年から「こでん(小型電気機器)」を回収し、有用金属の回収に取り組んできました。この取り組みが基となり、平成25年4月、小型家電リサイクル法が施行され、全国各地でこの使用済小型家電の回収、リサイクルが行われています。2020年、東京での開催が決定しているオリンピック・パラリンピックで授与されるメダルに、使用済小型家電などから回収した金・銀・銅を活用するよう、競技大会の組織委員会を始め、関係機関に提案します。" (In Odate City, we have been collecting and recycling used small household appliances (SHAs) since Heisei 18. This effort has become the basis for the implementation of the Small Household Appliance Recycling Law in April 2013, and nationwide collection and recycling of used SHAs. For the 2020 Olympics and Paralympics held in Tokyo, we propose to use gold, silver, and copper recovered from used SHAs for medals awarded, starting with the organizing committee of the sports events and other related organizations.) It also lists dates: "平成27年5月15日 小型家電リサイクル法で定める認定事業者が所在する東北三市(大館市、一関市、八戸市)市長が懇談し、連携して取り組んでいこうことを確認しました。" (May 15, 2015: City mayors of Odate, Utsunomiya, and Yamanashi discussed and confirmed to cooperate in this effort.) and "平成27年6月10日 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に提案書を提出。" (June 10, 2015: Proposal submitted to the Organizing Committee for the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games.) and "今後提案活動を展開します。" (We will continue to promote the proposal activity.) A small illustration of a recycling robot is also present.

▼金属リサイクルの流れ(イメージ)



出典:小坂製錬(株)

3) 新たな企業進出・設備投資の受け入れ環境整備(工業団地拡張)(大館市)

企業進出や設備投資が続く大館市では、平成27年2月に大館第二工業団地が完売となり、隣接3工業団地(合計100ha)がすべて完売しました。大館市では、平成25年度より大館北 IC 隣接地に市営釈迦内産業団地の造成を進めているほか、秋田県でも、平成25年度より大館・大館第二工業団地の拡張(23ha)に着手しています。

▼大館市工業団地拡張・新設の状況



【釈迦内産業団地】
 ・全体面積 約26ha
 ・H25年度からオーダーメイド方式で造成中

釈迦内産業団地
 全体面積 : 約26ha
 分譲済面積: 約10ha

【大館工業団地】
 ・全体面積 約33ha (S62年度完売)
 ・H25年度から約5haの拡張中

【大館第二工業団地】
 ・全体面積 約48ha (H26年度完売)
 ・H25年度から約18haの拡張中

【二井田工業団地】
 ・全体面積 約19ha (H20年度完売)

大館第二工業団地
 拡張面積: 約18ha
 H25~29年度

大館工業団地
 拡張面積: 約5ha
 H25~29年度

二井田工業団地

出典: 大館市

4)台湾からの誘客への取り組み(大館市)

- ・大館市の台湾への観光誘客セールスにおいて、「秋田犬」、「きりたんぼ鍋」、「森吉山の樹氷」、「白神山地」など秋田県北部が誇る資源や宝のニーズが高い。

日沿道の開通を見据え、あきた北空港を基軸とした観光ルートの提案が可能になるため、広域連携に取り組むことができます。

5)定住・交流の拠点化(北秋田市)

- ・鷹巣大館道路で北秋田市と大館市が結ばれれば、大館市の工業団地への時間が大幅に短縮されます。北秋田市に住み、大館市で働くことを見据え、定住促進に向けた住みよい街づくりを進めていきます。

今後、日沿道が繋がれば、あきた北空港 IC に近接する北秋田市民病院で高度医療技術を持つ医師により、県内などの若手医師の育成が可能になります。